

令和7年3月11日

摂津市立味舌小学校

校長 奥野 友紀

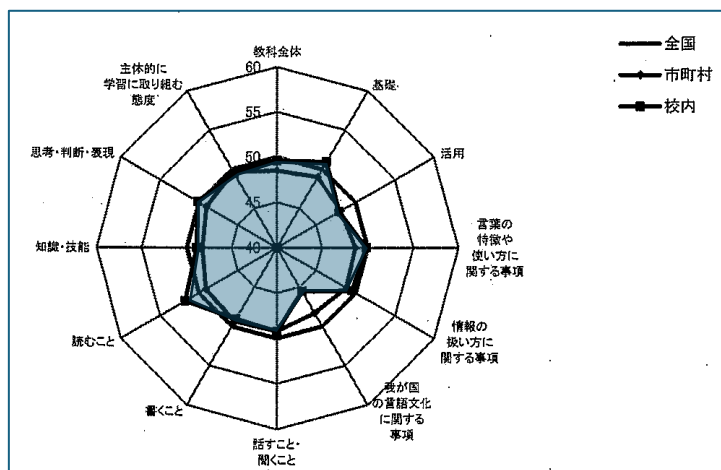
令和6年度摂津市学力定着度調査の結果から

1. 学校全体の結果概要

学年・教科での差はありますが、全教科（国語・算数・理科）が全国平均と大きく変わることなく、おおむね良好な状況です。

2. 6年生の結果分析

《国語》



【成果】

- ・「読むこと」において、全国の平均値より約5ポイント上回っています。
- ・「書くこと」において、無回答率が低いです。自分の意見とその理由を明確にして書くことができていません。

【成果の要因】

- ・物語文では全体像を想像しながら読みを進めるなど、学年で統一した指導計画や言語活動をおこないました。
- ・隔週で取り組んだマシコレ（短作文ワーク）で、粘り強く取り組む力がつきました。

【課題】

- ・漢字の定着ができていません。
- ・様々な情報を関連付けることが苦手です。

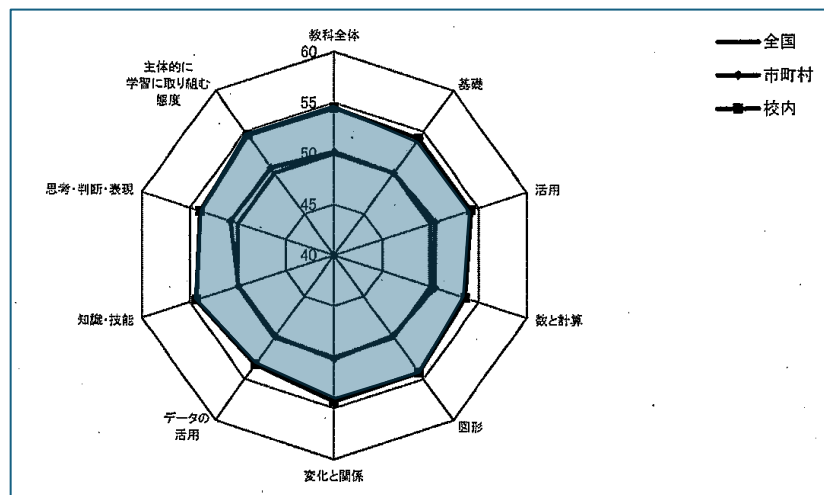
【課題の要因】

- ・漢字の使われ方や意味まで把握できていません。
- ・自分の考えを書くことはできますが、複数の資料やデータから分かることをまとめる学習が不十分であったと考えます。

【今後の取組み】

- ・既習の漢字を普段から使うようにします。また、漢字学習のときは、意味や使われ方まで指導します。
- ・資料やデータから自分の考えをまとめるときは、「こう書かれているから」というような根拠を示して書くよう指導します。色々な教科で、書かれている内容の要点をまとめる学習を進めていきます。

《算数》



【成果】

- ・概ねどの領域においても、全国や市町村の結果を上回っています。
- ・無回答率が低いです。

【成果の要因】

- ・授業始めの四則計算の反復練習が、基礎基本の定着につながりました。
- ・教科書問題と共に、様々な練習問題にチャレンジした結果、初見の問題にでも向き合え、無回答につながりました。

【課題】

- ・「数と計算」では、分数の『倍』の理解ができていません。
- ・「データの活用」では、グラフの特徴をもとに説明することが苦手です。

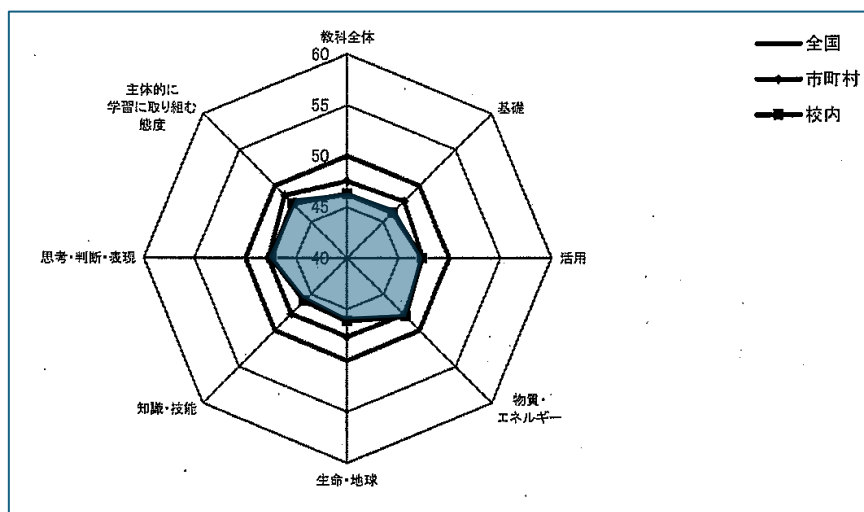
【課題の要因】

- ・文章から、基準量（もとなる量）が、どれにあたるかを読み取ることが難しいです。
- ・説明する際に、算数用語を正しく使って表現することが不十分でした。

【今後の取組み】

- ・反復練習や応用問題への取組みを継続します。
- ・文章から場面をイメージし式へと展開できるような授業構成の工夫をします。
- ・説明の機会をより増やすことを通して、表現のスキル向上をはかります。

《理科》



【成果】

- ・ 基本的な理科用語や実験内容については理解できています。
- ・ 実体験に基づいた内容については、よく理解できています。

【成果の要因】

- ・ 実験は小グループで行い、全員が実際に用具に触れる機会を大切にしてきました。
- ・ 児童が体験した内容や、身近な生活に置き換えて考察する機会を設けました。

【課題】

- ・ 内容は理解していても、理科用語を適切に使って記述できていません。
- ・ 実体験と繋がりにくい内容や、実際に目にみえないイメージしにくい内容は苦手です。

【課題の要因】

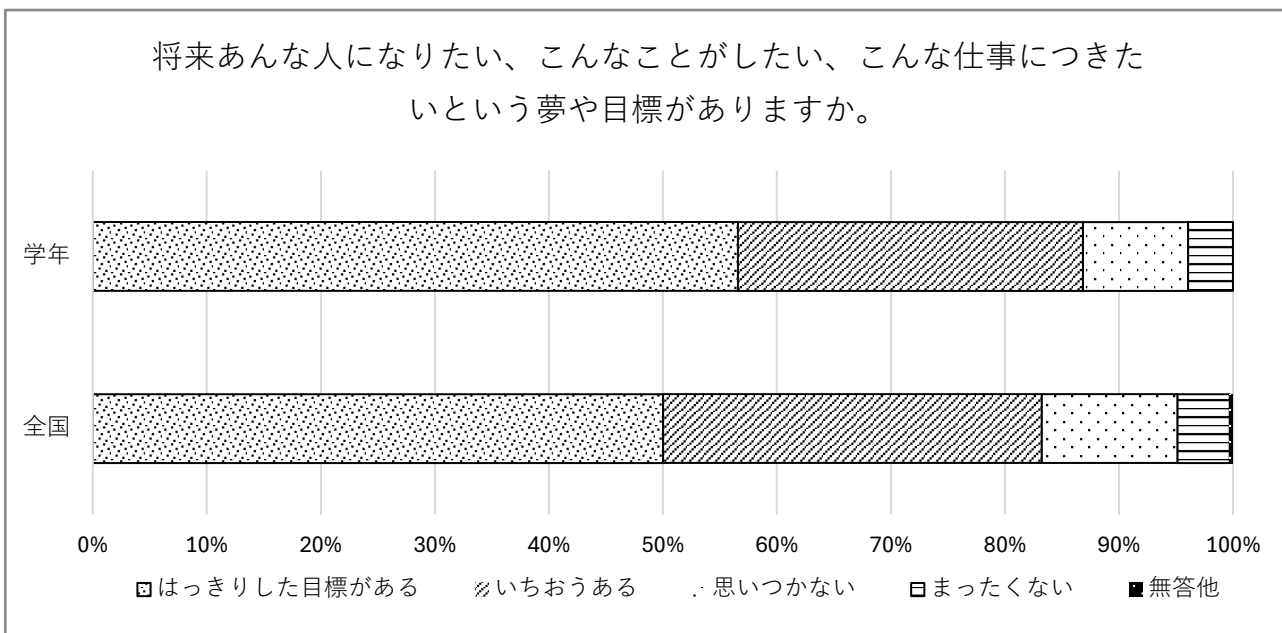
- ・ 考察の際、必要な用語を使って書くことが不十分でした。
- ・ イメージしやすいよう、具体物などを提示する機会が足りなかったと考えます。

【今後の取組み】

- ・ 考察の際に、理科用語をキーワードとして提示して、自分の考えを書くようにします。
- ・ できるだけ具体物を提示することで、イメージしやすくします。

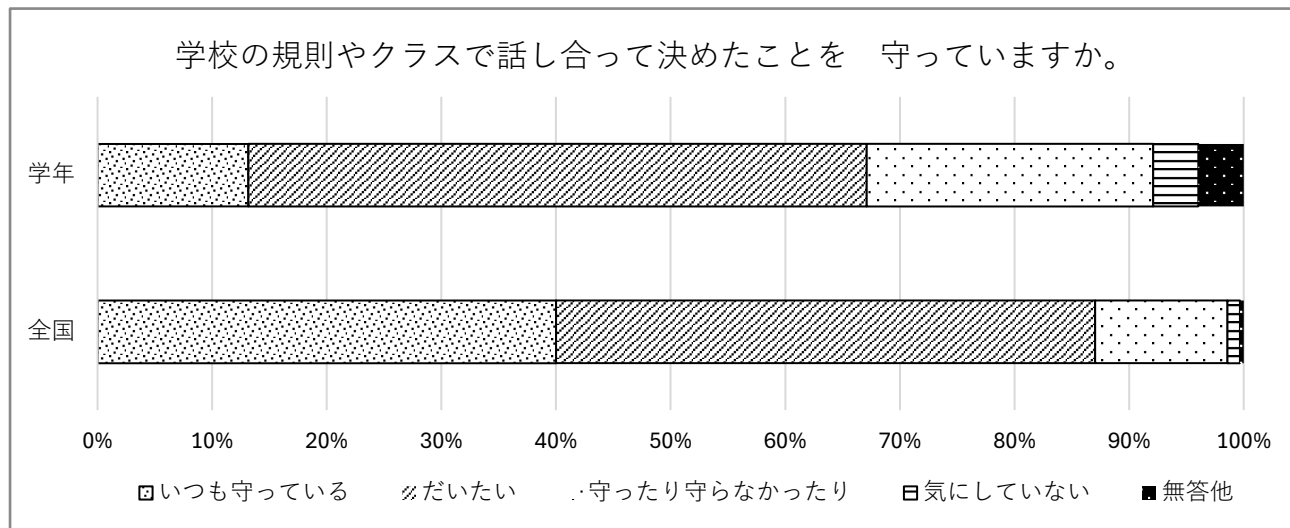
《i-check》

* 肯定的な回答が多かった項目



将来の夢や目標をぼんやりながらも、思い描くことができている児童が多いです。今年度、学校全体でキャリア教育に力を入れてきました。地域とつながったり、自己有用感を高めていく中で、あこがれの人や職業などについて思いを深めることができたのではないかと考えます。

* 改善が必要であると思われる項目



学級の規範意識が低い結果となりました。ルールがなぜあるのか、その意味・意義を考えさせるとともに、改めて学校における細かいルールの徹底を行っていく必要があると考えます。